

第51回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事録

- 日時 : 2021年2月17日(水) 10:00~11:20
- 場所 : WEB
- 出席者 : 浅枝会長、三島副会長、堂本委員、小川委員、荒木委員、川島委員、川村委員、木内委員、堀口委員(上尾市)、藤本委員(荒川上流河川事務所長)
荒川上流河川事務所 鬼頭課長、逢沢専門官
日水コン・日本生態系協会JV 中村、渡辺、加藤、田邊、柿本

●資料

議事次第・出席者名簿

資料-1. 第50回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録

資料-2. 2020年度の協議会と各組織の進捗と予定

資料-3. 寄付金等管理事務局の設置について

資料-4. 第50回協議会以降の工事の実施状況について

資料-5. 生態系モニタリング専門委員会の活動

資料-6. 維持管理・環境管理専門委員会の活動

資料-7. 広報ワーキングの活動

資料-8. 2020年度収支報告と2021年度活動予算(案)について

参考資料-1. 協議会設置要綱

参考資料-2. 2020年度のモニタリング結果(中間)

参考資料-3. 東京デザイン専門学校 プレゼンテーション報告

参考資料-4. パンフレット改訂(案)

参考資料-5. 大自然ツアーチラシ(裏面:2021年度イベント年間チラシ)

参考資料-6. 2021年度の協議会と各組織の予定

【議事結果】

- ① 生態系モニタリング専門委員会に関する協議会への提案事項(2021年度のモニタリング計画等)を承認する。
- ② 市民連携によって調査する方法を生態系モニタリング専門委員会で検討していく。
- ③ 維持管理・環境管理専門委員会に関する協議会への提案事項(2021年度の維持管理活動計画・保全管理活動計画、エコロジカル・ネットワークの取り組み、協議会協力者への身分証発行等)を承認する。
- ④ エコロジカル・ネットワークの取り組みとして、2/24に予定する「サクラソウ移植」の企画は、今後も継続して展開していく。
- ⑤ 広報ワーキングに関する協議会への提案事項(HPの改訂・パンフレットの改訂・2021年度の広報活動計画等)を承認する。
- ⑥ 2020年度収支報告と2021年度活動予算(案)について承認する。

【主な議事内容】

●第50回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録について

- ・ 了承（質疑なし）。

●2020年度の協議会と各組織の進捗と予定について

- ・ 了承（質疑なし）。

●寄付金等管理事務局の設置について

- ・ 了承（質疑なし）。

●第50回協議会以降の工事の実施状況について

- ・ 了承（質疑なし）。

●生態系モニタリング専門委員会の活動について

- ・ 2021年度のモニタリング計画等に関する協議会への提案事項を承認する。
- ・ （川村委員）地球温暖化の観点で、自然再生事業にどのような影響があるのか見ていく必要があるのではないか。
 - （浅枝会長）現在のモニタリングは種の有無を確認する調査が主であるため、量的な調査が必要では無いか。
 - （川村委員）荒川太郎右衛門自然再生地は広大であるために、量的な把握をする調査の実施は難しい。わかりやすい指標種を選んで市民が実施できると良い。
 - （運営事務局）R5年度からは市民連携主体のモニタリングに移行する予定である。具体的な方法は生態系モニタリング専門委員会で検討したい。

●維持管理・環境管理専門委員会の活動について

- ・ 2021年度の維持管理活動計画・保全管理活動計画、エコロジカル・ネットワークの取り組み、協議会協力者への身分証発行等に関する協議会への提案事項を承認する。
- ・ （川村委員）他の場所で使用した除草機を使用する場合は、他の場所からの外来種等の持ち込みに注意する必要がある。
 - （堂本委員）協議会として除草機を購入する場合は、協議会で管理するのでそのような問題が起きることは無い。仮に協議会が発注するようなことがある場合は、受注業者にはそのような問題が起きないように指導する。なお、現在は、近隣で使用されている農業機械による影響の方が懸念される。協議会として農家の方々への丁寧なアプローチが重要と考える。
 - （小川委員）江川のサクラソウトラスト地では、持ち込まない・持ち出さないことについて徹底しており、管理できている。持ち出さないことについては、トラスト地内で刈り取ったものの処分は内部で処理するというを徹底している。
 - （浅枝会長）協議会としてそのような管理方法・体制が確立されれば、マニュアル化して対外的にも提供していけると良い。
- ・ （小川委員）エコロジカル・ネットワークの取り組みとして、2/24に予定する「サクラソウ

移植」の企画は、今後も継続して展開していきたい。

- ・（浅枝会長）ニホンジカの問題についてはどのように取り扱うべきか。
→（堂本委員）維持管理・環境管理専門委員会として方向性を議論して協議会に提示している想定であったが、今年度はコロナ禍で会議の開催が予定通りにできず、現時点ではあまり議論できていない。議論を進めるにあたっては、現地状況の把握と共に、地域の意見確認も必要と考えている。引き続きこれらを進めて、次回以降の協議会に報告・提案していく。

● 広報ワーキングの活動について

- ・ HPの改訂・パンフレットの改訂・2021年度の広報活動計画等に関する協議会への提案事項を承認する。
- ・（川島委員）東京デザイン専門学校の企画提案により協議会の活動が活性化し、良い効果が出ている。地元のつばさ北小学校や桶川西高校の協力も同様である。さらに地元の児童・生徒に声をかけて広げていけると良い。
- ・（堂本委員）コロナ禍で対外的なPRが難しい状況にあるが、東京デザイン専門学校との連携は引き続き進める方向で動いている。この連携活動のプロセスそのものをマスメディアに取材して頂くと良いと思うので、働きかけていきたい。
→（浅枝会長）良いアイデアである。全国の自然再生事業では、環境学習などは一般的であるが、デザイン系の学校に関わってもらって若い人たちが活動している例は少なく、アピール性が高い。
- ・（木内委員）個々の活動は良いと思うが、多くの人が無秩序に現地に来ると自然への悪影響が懸念されるため、ゾーニングをして自然再生事業の重要な部分が守られるように留意する必要があるのではないか。
→（川村委員）利用しても良い場所へ誘導するような動線を整備することで、守りたい場所への立ち入りを抑制出来るのではないか。
→（三島副会長）自然をどのように守り・利用するかを考えるには未来の観点が必要であり、その判断のためには現状把握のための調査が必要である。
→（堂本委員）ご指摘のような問題認識のもとで、維持管理・環境管理専門委員会でゾーニングと目標・管理方針を議論し始めている。現実的にはルールを守る人だけではなく守らない人がいるため、こうした方々への対処を考える必要がある。現在では、中池の左岸側に不法設置された釣り台が増えつつあり、水鳥へ影響が出始めていることが懸念されるため、対処したい。また、将来的には、狩猟の範囲設定についても協議していきたい。
- ・（浅枝会長）移植するサクラソウについては盗掘の懸念はないか。
→（小川委員）ある程度は覚悟の上で、まずはやってみたいと考えている。
- ・（運営事務局）2/24のサクラソウ移植イベントは、緊急事態宣言が解除されないため、記者発表はしないこととする。

● 2020年度収支報告と2021年度活動予算（案）

- ・ 2020年度収支報告と2021年度活動予算（案）について承認する。
- ・（運営事務局）サイサン環境保全基金への報告をこれから実施するため、今回は経過報告で

ある。基金への報告が終わり、助成金が入金したあとに結果を取りまとめて監査を受ける予定である。

以上